

令和4年度（2024年度） シラバス

教科	英語	科目	英語コミュニケーションⅠ	1学年	必修	3単位
科目の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
教科書	CROWN English CommunicationⅠ		副教材	サブノート		
準備物						

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】	【行動力】 【共感力】
割合	35%	35%	30%
A	①語彙や表現、文法についての深い理解をもとに、読んで理解している。 ②語彙や音声、表現や文法についての深い理解をもとに、聴いて詳細まで理解している。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、高度な語彙や表現を活用しながら適切に表現することができる。	①コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、高度な語彙や表現を活用しながら適切に表現しようとしている。 ②各単元を通して、学んだ内容や語彙、文法の知識を自分なりに調べたり、深めようと努めていた。
評点	28～35	28～35	20～30
B	①語彙や表現、文法についてある程度理解しており、読んで大まかな内容を理解している。 ②語彙や音声、表現や文法についてある程度理解しており、聴いて大まかな内容を理解している。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、基本的な語彙や表現を用いて(高度な語彙を文意が損なわれない程度の誤りがあっても)活用しながら適切に表現することができる。	①コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、基本的な語彙や表現を用いて(高度な語彙を文意が損なわれない程度の誤りがあっても)活用しながら適切に表現しようとしている。 ②各単元を通して、英語への学習に自分なりに工夫して取り組もうと努めた。
評点	11～27	11～27	6～19
C	Bに達していない。	Bに達していない。	Bに達していない。
評点	～10	～10	～5
評価方法	定期考査 小テスト	提出物 定期考査 パフォーマンステスト	授業レポート パフォーマンステスト

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	1 The Bule White Shirt	- 和製英語についてのスティーブの経験と考えを理解する。 - 和製英語の他の例を自分なりに説明する。
5	2 Does It Spark Joy?	- 断捨離に関するコンノマリエさんの考えを理解する。 - 自分にとって喜びをsparkさせるものを説明する。 - ミヤザキケンスケの生き方や考え方を理解する。
6	3 Hatching the Egg of Hope	人と人とのつながりや人を幸せにする行動について、自分なりに にやってみたいことを述べることができる。
7	4 Digging into Mystery	- 日本の歴史に関するプレゼンを聴き、大まかな内容を理解する。 - 外国の日本について知らない人たちへ向けて、自分で選んだ時代の歴史について英語で説明する。
8	5 Roots&Shoots	- ジェーン・グドールへのインタビューを聴き、大まかな内容を理解する。 - 環境や、人と動物が共存する社会について考える。
9	6 You and Your Smartphone-Who's in Charge?	- スマートフォンに関する本文で述べられている長所と短所を理解する。 - スマートフォンの使用について他の人と意見を述べ合って考える。
10	7 Living in Alaska	- ホシノミチオのアラスカでの生活について読み、理解する。 - 身近な環境問題を1つ取り上げ、自分なりの英語で説明する。
11	8 Not So Long Ago	20世紀の戦争の歴史について読み、理解する。 - 戦争の原因や戦争のない社会の実現について自分なりの意見を述べる。
12	9 Our Lost Friend	- 大英博物館にあるモアイ像の問題について理解する。 - モアイ像など、ある土地から持ち去られた歴史的文化財について、誰が所有すべきなのか、自分なりの考えを述べる。
1	10 Good Ol' Charlie Brown	- チャーリーブラウンに込められたメッセージを、本文を読んで理解する。 - 人生の成功とは何か、自分なりの答えを考え、表現する。
2		
3		

3 学習方法（どうやって学ぶか）

(1) 知識・技能・・・読むことや聴くことを通した内容理解や、その内容への背景知識などを学ぶ。

(2) 思考・判断・表現・・・各単元ごとのまとめの課題を通して、考えたり、表現したりする能力を育成する。また、定期考査後にパフォーマンステストを行い、話す(やり取り)について評価を行う。

(3) 主体的に取り組む態度・・・各単元ごとにプリントや課題を集め、表現する中で単元を通して学ぶ前よりどのように思考が深まったかや、活動や課題の中で表現しようと取り組んだのかを評価する。

令和6年度（2024年度） シラバス

教科	家 庭	科目	家庭基礎	1学年	必修	2単位
科目の 目標	生活に関する実践的、体験的な活動を通して、生活の中の課題と、その解決の方策を考える。また、ライフステージの各段階における課題等を学び、自分らしい人生をつくり、共生社会を実現する意欲と能力を育成することを目指す。					
教科書	Agenda 家庭基礎(実教出版)			副教材	な し	
準備物						

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】	【行動力】 【共感力】
割合	40%程度	40%程度	20%程度
A	生涯を見通した生活設計を行うために必要な知識や技能を十分に身につけている。	自身の人生を主体的に十分に考え、また持続可能な社会の形成のための家庭生活を十分に考案し、表現している。	人の一生や生活に関するさまざまな課題や解決策について、積極的に調べ、発表することが十分にできる。
B	生涯を見通した生活設計を行うために必要な知識や技能を身につけている。	自身の人生を主体的に考え、また持続可能な社会の形成のための家庭生活を考案し、表現している。	人の一生や生活に関するさまざまな課題や解決策について、積極的に調べ、発表することができる。
C	生涯を見通した生活設計を行うために必要な知識や技能が不十分である。	自身の人生を主体的に考え、また持続可能な社会の形成のための家庭生活を考案し、表現することが不十分である。	人の一生や生活に関するさまざまな課題や解決策について、積極的に調べ、発表することが不十分である。
評価方法	小テスト 実技テスト 提出物	提出物 表現活動	自由レポート

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名		具体的な学習内容
4	生活の自立のために	衣生活	・繊維の歴史 ・繊維の構造 ・洗濯の科学 ・エシカルな衣生活 ・基礎縫いの技術を習得する
5			
6		食生活	・よい食生活とは？～食生活チェック～ ・5大栄養素と栄養計算 ・栄養バランスを整えるその他の方法 ・食中毒と食品の安全 ・調理実習（年間3回予定）
7			
8		住生活	・安全で衛生的な住まい ・災害から身を守る ・自分の理想の部屋を考える
9		消費者経済	・お金の管理とライフデザイン ・契約とは？購入計画の多様化 ・貯める、増やす～資産形成～ ・消費者問題
10	人の一生を考える	人の一生と家族	・私たちの一生はどう変わったか ・家族をめぐる法律 ・「家族ドラマ」を作る ・ジェンダー平等を実現しよう
11		子育てを学ぶ	・乳幼児の心身の発達 ・子育てで最も大切なこと ・子どもと遊び ・生殖医療について考える
12			
1 2		高齢期の生活、生活を支える仕組み	・高齢社会の現状と課題 ・認知症と介護
3	特別授業：		・1年間のまとめと振り返り

3 学習方法（どうやって学ぶか）

(1)知識・技能・・・栄養に関する小テスト、基礎縫い実技テスト等を実施する。しかし、生活に関するさまざまな知識や技能は、高校の授業のみで習得できるものでは到底ない。授業以外にも生活における各場面で、それらを体験し、習得につとめること。

(2)思考・判断・表現・・・基本的に各単元ごとに課題の提出を求める。例えば、食生活レポート、家族ドラマを作ったの考察等。課題は期限を守って確実に提出すること。また、「人の一生と家族」の領域では、グループで『家族ドラマ』のシナリオを作り、それを演じる。それぞれの課題に積極的に取り組むこと。授業のさまざまな場面でディスカッションやその発表を行うので、積極的に参加すること。

(3)主体的に取り組む態度・・・夏休み、冬休みに授業の内容をさらに深めるレポートの自由提出ができる。これらに取り組む生徒については、その主体的な態度を評価する。また「一人暮らしの住居計画」レポートの提出も主体的態度の評価に含める。

令和 6 年度（2024年度） シラバス

教科	理科	科目	生物基礎	1学年	必履修	2単位
科目の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。					
教科書	高等学校 生物基礎 (第一学習社／生基710)	副教材	改訂版 リードα 生物基礎(数研出版) 二訂版 スクエア最新図説生物(第一学習社)			
準備物	教科書・ノート・図説・問題集・授業プリント用ファイル					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】	【分析力】 【思考力】 【表現力】	【探究力】 【行動力】
割合	35%	35%	30%
A	日常生活や社会との関連を踏まえた生物や生物現象についての理解及び、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を十分に身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力と、実験データから考察を導き出し、文章やグラフ、表などで表現する力が十分に身に付いている。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境保全に寄与する態度を十分に身に付けている。
評点	28～35	28～35	24～30
B	日常生活や社会との関連を踏まえた生物や生物現象についての理解及び、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力と、実験データから考察を導き出し、文章やグラフ、表などで表現する力が身に付いている。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境保全に寄与する態度を身に付けている。
評点	12～27	12～27	9～23
C	日常生活や社会との関連を踏まえた生物や生物現象についての理解及び、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が不十分である。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力と、実験データから考察を導き出し、文章やグラフ、表などで表現する力が不十分である。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境保全に寄与する態度が不十分である。
評点	～11	～11	～8
評価方法	定期考査 小テスト	定期考査 授業プリント	実験レポート 授業プリント 授業態度

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	1 編 生物の特徴	生物の多様性と共通性 生命活動とエネルギー
5		
6		
	前期中間考查	
7	2 編 遺伝子のはたらき	生物と遺伝子 遺伝情報の分配 遺伝情報とタンパク質の合成
8		
9		
	前期期末考查	
10	3 編 生物の体内環境の維持	体内環境 体内環境を維持するしくみ 免疫
11		
	後期中間考查	
12	4 編 生物の多様性と生態系	植生の多様性と遷移 バイオームとその分布 生態系とその保全
1		
2		
	後期期末考查	
3		

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- ① 授業中は、自分が今何を学んでいるのかを意識しつつ、それらを理解するために熱心に考えましょう。
- ② 教科書に書かれている文章の意味を正確に理解するため、丁寧に読みましょう。
- ③ 教科書や問題集に出ている重要用語について、文章で説明できるようにしましょう。
- ④ 生物現象を深く理解するために、グラフや表を用いて比較したり、関連づけたりできるようにしましょう。
- ⑤ 必要に応じて、先生や友達と学習内容について対話して、理解を深めましょう。
- ⑥ 観察や実験を行うときは、どのような結果になるかを予想したり、仮説を立てたりしながら進めましょう。
- ⑦ より深い理解のために、インターネットや図説を効果的に利用しましょう。
- ⑧ 適宜、学習内容を振り返って次の学びにつなげましょう。
- ⑨ 大学入試などの良問に取り組むことも、そのテーマの先達との対話であり、深い理解につながります。

令和6年度（2024年度） シラバス（物理基礎）

教科	理科	科目	物理基礎	1学年	必修	2単位
科目の目標	(1)日常生活や社会との関連を図りながら物理現象やエネルギーの関心を深める。 (2)実験や観察、問題演習を通して物理的な見方を養う。					
教科書	物理基礎 (東京書籍)		副教材	新課程版 セミナー物理基礎(第一学習社)		
準備物	授業プリント					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】		【探求力】 【行動力】
割合	20%	40%	30%	10%
A	複雑な物理現象をの本質をつかみ、背景に隠れた物理法則を正確に認識し正しく適用できる。	複雑な物理現象の本質をつかみ、適切な物理法則により正しく立式し結論を導くことができる。別解を考え、他者へ提案できる。	複雑な物理現象を正しく図解し、立式することで各物理量の関係を正しくグラフ化できる。 物理公式を、根拠を示しながら正確に簡潔に導出できる。	実験、観察において、学習を通じて得た知識を活用して、定量的または定性的に正しく考察ができ、新たな課題を設定することができる。 主体的に問題演習に取り組み、分析力、思考力、表現力を高める努力ができる。
評点	17～20	34～40	25～30	8～10
B	日常生活の経験から身につけた誤った自然観(誤概念)を解消し物理現象を客観的に理解し、単純な問題に対しては、正しく物理法則を適用できる。	単純な物理現象を客観的に思考し、適切な物理法則を当てはめ、正しく演算し結論を導くことができる。	単純な物理現象を正しく図解し、立式することで各物理量の関係を正しくグラフ化できる。 物理公式を、根拠を示しながら概ね正しく導出できる。	実験観察において、学習を通じて得た知識を活用して、定量的または定性的に正しく考察することができる。 主体的に問題演習に取り組み、正しい知識の定着を図る努力ができる。
評点	9～16	18～33	13～24	5～8
C	物理現象を主観的にしか理解せず、誤概念を持った状態に留まっているため正しく物理法則を適用できない。	物理現象を誤概念を持った状態で主観的に考えるため、正しい結論を導くことができない。	物理現象について、曖昧な根拠をもとに結論や結果のみを形式的に覚え再現する段階に留まっている。 物理公式の多くを導出できない。	実験観察において、定量的または定性的に正しく考察することができない。 正しい知識の定着を図るために主体的に努力することができない。
評点	～8	～17	～12	～4
評価方法	定期考査	定期考査	定期考査 提出物（課題）	定期考査 提出物（課題）

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	2章 エネルギー 2節 熱と仕事	1. 熱と温度 A. 熱運動 D. 物質の三態 C. 熱容量と比熱、熱の伝わり方と熱平衡
5	1章 物体の運動 1節 運動の表し方	2. 熱と仕事 A. 熱と仕事 B. 熱力学第一法則 C. 熱機関 1. 速度 A. 速さ B. 等速直線運動 C. 速度 D. 位置と変位 E. 平均の速度 F. 瞬間の速度
6		前期中間考査
		G. 速度の合成 H. 相対速度
7		2. 加速度 A. 加速度 B. 等加速度直線運動
8		3. 落体の運動 A. 重力による加速度 B. 自由落下運動 C. 鉛直投下運動 D. 鉛直投上運動
9		前期期末考査
	2節 力	1. 力 A. 力とは B. 力の表し方 C. 重力と質量 D. いろいろな力 E. 力の測り方 2. 力のつり合い A. 力の合成 B. 力の分解 C. 力のつり合い 3. 作用と反作用 A. 作用反作用の法則 B. 力のつり合いと作用反作用
10	3節 運動の法則	4. いろいろな力 A. 静止摩擦力 B. 動摩擦力 1. 慣性の法則 A. 慣性の法則 B. 身の回りの慣性 2. 運動の法則 A. 力と加速度 B. 質量と加速度 C. 運動の法則 D. 運動の三法則 3. 運動方程式の活用 A. 1物体の場合 B. 2物体の場合 C. 空気抵抗を受ける物体の運動
11		後期中間考査
	2節 力	4. いろいろな力 C. 気圧と水圧 D. 浮力
12	2章 エネルギー 1節 運動とエネルギー	1. 運動とエネルギー A. B. 仕事 C. 仕事の原理 D. 仕事率 E. 仕事とエネルギー 2. 運動エネルギー A. 仕事と運動エネルギー B. 運動エネルギーの変化と仕事 3. 位置エネルギー A. 重力による位置エネルギー B. 弾性力による位置エネルギー 4. 力学的エネルギー保存の法則 A. 力学的エネルギー B. 力学的エネルギー保存の法則 C. バネ振り子の運動 D. 力学的エネルギーが保存されない場合
1		
2	3章 波 1節 波の性質	1. 波とは何か A. 波 B. 波の発生 C. 波の表し方
		後期期末考査
		D. 横波と縦波
3		2. 重ね合わせの原理 A. 重ね合わせの原理 B. 定常波 C. 波の反射

3 学習方法（どうやって学ぶか）

(1)授業では講義と演習を交互に行います。 ①講義では、教科書とノートが必要です。ノートには板書をまとめ、後から見たときに学んだ知識の意味や知識と知識の関連性や、教科担任から説明された内容を思い出せるように工夫して取ってください。 ②配付される授業プリントによる問題演習を行います。演習では個人個人で演習をする場面と、必要に応じてペアワーク、グループワークなど対話的な学習形態をとる場面があります。教科担任による講義で得た知識を正しく理解するために他者の考え方を聞く姿勢と、他者へ伝える努力をしてください。
(2)定期考査ごとに課題提出をしてもらいます。 準教科書として問題集「セミナー物理基礎」(第一学習社)があります。各単元における様々な問題パターンが掲載されていますので、知識の定着のために基本問題はすべて解き、学んだ知識を使える知識に変える努力をしてください。定期考査ごとに、試験範囲の基本問題を演習したノートを提出してもらいます。
(3)自然科学を学ぶということは、客観的な視点で自然を見る力を育てることです。日常生活の中で培った主観的な視点では自然を正しく理解することはできません。自然界に潜む普遍的な原理、法則をもとに自然現象を読み解き、数学的に表現する力を身につけることが、物理を学ぶ目的であることを忘れずに演習を大切にしてください。授業の中で行う、観察、実験を通じて、学んだ知識の確認と相違点があればその考察をする力も身につけていきましょう。

令和6年度（2024年度） シラバス

教科	英語	科目	論理・表現 I	1学年	必修	2単位
科目の 目標	スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、複数の段落の文章を書くことなどを通して、論理の構成や展開を工夫して話したり書いたりして伝える又は伝え合うことなどができるようになることを目指す。					
教科書	be Smart English Logic and Expression I		副教材	be English Grammar 30		
準備物						

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】	【行動力】 【共感力】
割合	35%	35%	30%
A	①語彙や表現、文法についての深い理解をもとに、読んで理解している。 ②語彙や音声、表現や文法についての深い理解をもとに、聴いて詳細まで理解している。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、高度な語彙や表現を活用しながら適切に表現することができる。	①コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、高度な語彙や表現を活用しながら適切に表現しようとしている。 ②各単元を通して、学んだ内容や語彙、文法の知識をさらに調べたり、深めようと努めていた。
評点	28～35	28～35	20～30
B	①語彙や表現、文法についてある程度理解しており、読んで大まかな内容を理解している。 ②語彙や音声、表現や文法についてある程度理解しており、聴いて大まかな内容を理解している。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、基本的な語彙や表現を用いて(高度な語彙を文意が損なわれない程度の誤りがある程度)活用しながら適切に表現することができる。	①コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、基本的な語彙や表現を用いて(高度な語彙を文意が損なわれない程度の誤りがある程度)活用しながら適切に表現しようとしている。 ②各単元を通して、英語への学習に自分なりに工夫して取り組もうと努めた。
評点	11～27	11～27	6～19
C	Bに達していない。	Bに達していない。	Bに達していない。
評点	～10	～10	～5
評価方法	定期考査	提出物 定期考査 パフォーマンステスト	授業レポート パフォーマンステスト

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	Lesson 1 Meeting People Lesson 2 Holidays and Weekends	自分のことを話す 休日・週末にしたことを話す ※適宜文法学習およびライティング活動を行う
5	Lesson 3 Making Plans Lesson 4 Travels	予定について話す 旅行について話す ※適宜文法学習およびライティング活動を行う
6	Lesson 5 Study and Activities Lesson 6 Food	学習・課外活動について話す 食べ物について話す ※適宜文法学習およびライティング活動を行う ※上旬に前期中間考査
7	Lesson 7 School Life	学校生活について話す ※適宜文法学習およびライティング活動を行う
8	Lesson 8 Daily Life	日常生活について話す ※適宜文法学習およびライティング活動を行う
9	Lesson 9 Transportation Issues Lesson 10 The Future	交通機関の問題について話す 将来したいことについて話す ※適宜文法学習およびライティング活動を行う
10	Lesson 11 Staying Healthy Lesson 12 New Products	健康について話す 新しい製品について話す ※適宜文法学習およびライティング活動を行う ※上旬に前期期末考査
11	Lesson 13 Hobbies and Interests Lesson 14 The World of Nature	趣味・関心について話す 自然について話す ※適宜文法学習およびライティング活動を行う
12	Lesson 15 Trouble and Accidents Lesson 16 Technology and Invention	トラブル・事故について話す 技術・発明について話す ※適宜文法学習およびライティング活動を行う
1	Lesson 17 Achievements Lesson 18 Cities and Towns	達成したことを話す 都市・町について話す ※適宜文法学習およびライティング活動を行う
2	Lesson 19 Living Environment Lesson 20 Social Problems	生活環境について話す 社会問題について話す ※適宜文法学習およびライティング活動を行う ※中旬に後期中間考査
3	Lesson 21 Making Wish Lesson 22 Cross-cultural Communication	願い事について話す 異文化を理解する ※適宜文法学習およびライティング活動を行う

3 学習方法（どうやって学ぶか）

(1) 知識・技能・・・適切に意味の伝わる語彙や文法を場面に応じて使うための知識を身につける。知識・技能は主に定期考査で評価する。

(2) 思考・判断・表現・・・各単元ごとのまとめの課題を通して、考えたり、表現したりする能力を育成する。また、定期考査後にパフォーマンステストを行い、話す(やり取り)や話す(発表)について評価を行う。

(3) 主体的に取り組む態度・・・各単元ごとにプリントや課題を集め、表現する中で単元を通して学ぶ前よりどのように思考が深まったかや、活動や課題の中で表現しようと取り組んだのかを評価する。

令和6年度（2024年度） シラバス

教科	芸術科	科目	音楽Ⅰ	1 学年	必修	2 単位
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。					
教科書	音楽Ⅰ Tutti＋ (教育出版)		副教材	適宜プリント等配布・配信		
準備物	A 4 版紙ファイル・タブレット端末					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	創造的な音楽表現の知識・技能	音楽表現の構想と工夫	鑑賞の能力	音楽への関心・意欲・態度
旭東DP	【認知力】	【表現力】 【創造力】	【共感力】 【分析力】	【行動力】
割合	30%	20%	20%	30%
A	創造的に音楽表現するために、基礎的な知識を十分に身に付け、効果的な表現技能を十分に身に付けている。	音楽のよさや美しさを感じ、感性を働かせながら、自らの考えに基づいて構想し、表現を工夫することが十分できている。	日常生活の音楽の効能や、音楽の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、音楽のよさや美しさを創造的に味わうことが十分にできている。	音楽の創造的活動の喜びを味わい、音楽の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことが十分にできている。
評点	25・30	15・20	15・20	25・30
B	創造的に音楽表現するために、基礎的な知識を身に付け、効果的な表現技能を身に付けている。	音楽のよさや美しさを感じ、感性を働かせながら、自らの考えに基づいて構想し、表現を工夫している。	日常生活の音楽の効能や、音楽の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、音楽のよさや美しさを創造的に味わうことができている。	音楽の創造的活動の喜びを味わい、音楽の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
評点	15・20	10・15	10・15	15・20
C	創造的に音楽表現するために、基礎的な知識が身に付いておらず、効果的な表現技能が不十分である。	音楽のよさや美しさを感じ、感性を働かせながら、自らの考えに基づいて構想しておらず、表現を工夫することが不十分である。	日常生活の音楽の効能や、音楽の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考えておらず、音楽のよさや美しさを創造的に味わうことが不十分である。	音楽の創造的活動の喜びを味わい、音楽の伝統と文化に関心をもつてず、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことが不十分である。
評点	0・5・10	0・5	0・5	0・5・10
評価方法	実技試験・筆記試験 授業プリント	実技試験 授業プリント	自己評価プリント 授業プリント	授業取組みの姿勢 授業プリント 提出物

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	題材名	具体的な学習内容
4	○ガイダンス・オリエンテーション ○斉唱『校歌』	・授業の全体の流れや準備するもの等を確認する。 ・本校の伝統や歌詞の意味を考え深め、斉唱する。
5	○歌唱 ・イタリア歌曲『Caro mio ben』『O sole mio』『Santa Lucia』 ・（実技試験：歌唱テスト） ・ドイツリート『野ばら』 ・シャンソン『おおシャンゼリゼ』	・各国の文化や習慣、歴史等から、比較分析をする。歌詞が表す情景や心情を生かした楽曲にふさわしい音楽表現を工夫する。 ・腹式呼吸及び発声法を学び歌唱に役立てる。 ・グループによる歌唱発表を経験し、自己表現の領域を広げ協調性を養う。
6	・日本歌曲『この道』『浜辺の歌』『故郷』他 ○鑑賞「ミュージカル」「オペラ」 「クラシック 名曲CD」（ピアノ曲、声楽曲）	・それぞれの舞台芸術の特徴を理解し、それらの文化的・歴史的背景に関心をもって鑑賞する。
7	○楽典「音名、音程、音階、調号、関係調、和音、コードネーム」 （筆記試験）	・基礎的な楽譜の読み方や読譜について、音程、音階、調、和音の種類や特徴について学習する。
8	○器楽 津軽三味線『さくらさくら』	・三味線の基本的な扱い方を理解し、様々な奏法を知る。それらを音色の変化や表現法に役立てる。
9	（実技試験）	
10	○鑑賞「我が国・各国の伝統音楽」	・各国の伝統音楽の魅力を知る。
11	○器楽「リコーダーアンサンブル」 ・2重奏『メヌエット』『ピタゴラスイッチ』 『いつも何度でも』『よろこびの歌』 『Jupiter』	・リコーダーの構成、運指、様々な表現形態による器楽表現の特徴を理解し、その特徴を生かした表現方法を工夫する。合奏では互いの音を聴き合い、曲想に合った音色や奏法を知り、演奏表現を工夫する。
12	・重奏（実技試験）	・前期と異なる新たなグループ活動においても少人数での重唱を楽しむ。
1	○合唱「混声合唱」 ポップス、コーラス曲	・学習したことを生かし、演奏表現を創意工夫し、他者と関わりながら音楽活動を楽しむ。
2	○器楽「合奏」	・単旋律ではないハーモニーの美しさを感じながら演奏する。
3	○合唱奏 ○その他	・様々な音楽形態を創意工夫しながら協調性をもって互いに高め合う。
		・日常生活に密接した音楽を通じて、音楽を愛好し、親しむ心情をもって主体的に取り組む。

3 学習方法（どうやって学ぶか）

（1）歌唱では、斉唱や独唱、合唱を行います。発声の違いや歌詞の意味、情景や心情などを理解し、自己のイメージを大切にしながら多様な歌唱表現につなげていきます。ヴォイストレーニングを兼ねた発声練習も行います。
（2）楽典では、基本的な読譜から音を理論的に捉えて音楽の構造の仕組みを学習します。学んだ知識を、音楽的効果や音楽表現に生かせるよう実際に音を出し、イメージしながら学習していきます。
（3）器楽では、リコーダーと三味線を学習します。リコーダーでは、奏法を確認しながら合奏を深めます。日本の伝統音楽の中から津軽三味線を学習します。組み立て方や撥の持ち方、姿勢、片付け方などの扱い方、調弦方法、更に特徴的な奏法（ハジキ、スクイ等）を学習します。
（4）鑑賞では、日本や各国の伝統音楽、ミュージカル、オペラ等を鑑賞します。それぞれの特徴を知り、文化的、歴史的背景を踏まえて鑑賞することでより一層理解を深めます。

※以上から、音楽の授業は、座学（楽典）、歌唱（斉唱・独唱・合唱）、器楽（リコーダー・津軽三味線）、鑑賞の4本立てで行います。

令和6年度（2024年度）シラバス 【現代の国語】

教科	国語	科目	現代の国語	1 学年	必修	2 単位
科目の目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的思考力や表現力を伸ばし、言葉を通じて他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
教科書	現代の国語（数研出版）		副教材	新訂総合国語便覧（第一学習社）		
準備物	教科書・タブレット・ノート・紙ファイル・国語便覧					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度
		話す・聞く	書く	読む	
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】			【行動力】 【共感力】
割合	40%	10%	10%	20%	20%
A	実社会に必要な国語の知識や技能を十分に身に付けている。	話合いを通して考えを広げたり深めたりしながら、話合いの仕方や結論の出し方を工夫することが十分にできている。	他者に伝えることを意識しながら、適切な言葉を用いて、自らの思いや考えを文章で表現することが十分にできている。	文章の種類を踏まえて、叙述を基に内容や要点を的確に捉えたり、客観的に評価したり、書き手の意図を解釈したりすることが十分にできている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が十分に養われている。
評点	27～40	7～10	7～10	14～20	14～20
B	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	話合いを通して考えを広げたり深めたりしながら、話合いの仕方や結論の出し方を工夫することができている。	他者に伝えることを意識しながら、適切な言葉を用いて、自らの思いや考えを文章で表現することができている。	文章の種類を踏まえて、叙述を基に内容や要点を的確に捉えたり、客観的に評価したり、書き手の意図を解釈したりすることができている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が養われている。
評点	14～26	4～6	4～6	7～13	7～13
C	実社会に必要な国語の知識や技能が不十分である。	話合いを通して考えを広げたり深めたりしながら、話合いの仕方や結論の出し方を工夫することが不十分である。	他者に伝えることを意識しながら、適切な言葉を用いて、自らの思いや考えを文章で表現することが不十分である。	文章の種類を踏まえて、叙述を基に内容や要点を的確に捉えたり、客観的に評価したり、書き手の意図を解釈したりすることが不十分である。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が不十分である。
評点	～13	～3	～3	～6	～6
評価方法	定期考査 小テスト	表現活動	定期考査 提出物	定期考査	提出物

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

※は読み比べに用いる文章

月	単元名	具体的な学習内容
4	書けない日々 ものどことば	ことばの重要性について考え、表現する。具体と抽象、対比構造を意識した読み方を学ぶ。
5	知識のシステムをつくる コミュニケーション能力とは何か わらしべ長者の経済学	文章中のキーワードの定義についてまとめ、表現する。主張の列挙を意識した読み方を学ぶ。
6	前期中間考査	
7	政治的思考 ※[未来をはじめる] 他者を理解すること	自己と他者(対象)との関係・距離について考え、表現する。キーワードを意識した要約の方法を学ぶ。
	浪費を妨げる社会	経済について述べた文章から、身近な具体例を考え、表現する。定義づけと二者の相違点を意識した読み方を学ぶ。
8	動物園というメディア ※[水の東西] [自然との連帯]	西洋と日本の比較、人間と自然の関わりについて考え表現する。対比を意識した読み方を学ぶ。複数テキストの共通・相違点を捉える。
前期期末考査		
9	感情暴走社会の由来 事実なのか考えなのか	定義づけと二者の相違点を意識した読み方を学ぶ。特有のキーワードの定義づけを意識し、解釈する読み方を学ぶ。
10	科学コミュニケーション ※[デジタルメディア 時題の複製][無痛化する社会のゆくえ]	現代社会が抱える問題点への指摘について、自分なりに考え、表現する。※「科学コミュ～」との関連性を意識し、批判的に読む姿勢を身につける。
11	時間と自由の関係について 時を編む人間	現代社会と時間の関係性について考え、表現する。対比と文中のキーワードを意識した読み方を学ぶ。
後期中間考査		
12	ポスト・プライバシー	現代社会を取り巻く問題について考え、表現する。対比や比較の接続を意識した読み方を学ぶ。
1	動的平衡の回復	一般の事象に通じるテーマ、キーワードから自分なりに具体例を考える。
2	白	抽象的なキーワードやテーマをイメージ化し、捉える態度を学ぶ。
後期期末考査		
3	命は誰のものなのか	自己の立場について、根拠をもって表現し伝える方法を学ぶ。他者の考えを受容し、さらに自己の考えを深めようとする立場を学ぶ。

3 学習方法(どうやって学ぶか)

(1) 漢字は訓読みの理解を重視し、字義を理解することに努めること。熟語の場合、各々の字の関連を意識し、漢文の領域にもつながる知識を身につけるよう努めること。語句の意味を調べるだけでなく、類義語・対義語・使用例なども調べ、意識した知識として使用できるように務めること。様々な文章・書物を読み、語義を調べるなど積極的に語彙を増やすよう心掛けること。小テストなど、知識を確認することもあるので、日常的に取り組むこと。

(2) 「話すこと・聞くこと」に関しては、スピーチ、ディスカッション等で評価する。

(3) 「書くこと」に関しては、課題への取り組み及び定期考査の記述問題等で評価する。課題は期限を守り、確実に提出すること。

(4) 「読むこと」に関しては、教科書にある文章を教材として使用するが、定期考査ではそれら以外に初見の文章からも出題することがある。論理の構成や展開の仕方等、文章の読解法や読む態度を身に付けようとする。

(5) 主体的に読書することを強く勧める。一冊読み終えたら手帳やスマホのメモ等でも良いので、自分の読書履歴を作っておこう。書籍になっているもの以外にも、本校で毎日発行している「小論情報」や「本日のコラム」等を読むようにしよう。

(6) 文章の要旨をまとめて、他者に伝える活動や文章の内容についてテーマを決めて自分の考えを文やスピーチ、ディスカッションで表現する活動を考えています。日常から文章と対話する姿勢を習慣化しよう。

令和6年度（2024年度）シラバス 【言語文化】

教科	国語	科目	言語文化	1学年	必修	2単位
科目の目標	我が国の言語文化に対する理解を深め、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で自分の思いや考えを広げ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
教科書	言語文化(数研出版)		副教材	新訂総合国語便覧(第一学習社)・完全マスター古典文法(第一学習社)・精説漢文(いっずな書店)・古文単語330(いっずな書店)		
準備物	教科書・ノート・完全マスター古典文法・精説漢文・総合国語便覧・古文単語330					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度
		話す・聞く	書く	読む	
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】			【行動力】 【共感力】
A	伝統的な言語文化及び言葉のきまりや特徴などについて、十分身につけている。	目的や場に応じて的確に聞き取ったり、話し合ったりして自分の考えを十分深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを十分深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを十分深めている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を十分深めている、
B	伝統的な言語文化及び言葉のきまりや特徴などについて、身につけている。	目的や場に応じて的確に聞き取ったり、話し合ったりして自分の考えを深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深めている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深めている、
C	伝統的な言語文化及び言葉のきまりや特徴などについて、理解が不十分である。	目的や場に応じて的確に聞き取ったり、話し合ったりして自分の考えを深めることが不十分である。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深めることが不十分である。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深めることが不十分である。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深めることが不十分である、
評価方法	定期考査 小テスト	表現活動	定期考査 提出物	定期考査	提出物

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	【古】 宇治拾遺物語 児のそら寝、絵仏師良秀	古文の基礎・動詞・形容詞・形容動詞について学習する。
5	【漢】 漢文入門 漁夫之利 矛盾	漢文のきまり、基本的な訓読の仕方、漢文の句法について学習する。
6	【古】 伊勢物語 土佐日記	歌物語・日記・助動詞について学習する。
6	前期中間考査	
7	【漢】 狐借虎威 朝三暮四	漢文の句法について学習する。
8	【古】 枕草子 白氏文集	異国文化の影響について学習する。
9	【漢】 管鮑之交 先從隗始 鶏口牛後	漢文の句法について学習する。
9	前期期末考査	
10	【古】 徒然草	敬語表現について学習する。
11	【漢】 雑説 科挙	人生観の表現について学習する。
11	【古】 万葉集 古今和歌集 新古今和歌集	和歌について学習する。
11	後期中間考査	
12	【近】 羅生門 今昔物語集	近代小説と説話を比較学習する。
1	【近】 山月記 人虎伝	近代小説と漢文を比較学習する。
2	【漢】 中国の思想 孔子 孟子	思想について学習する。
2	後期期末考査	
3	【漢】 漢詩	漢詩の形式について学習する。

3 学習方法(どうやって学ぶか)

- ①音読を繰り返し、古文や漢文のリズムを体得する。
- ②文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方を理解し、語彙を豊かにする。
- ③文法事項では、文語のきまり、訓読のきまりを理解する。
- ④口語訳を行い、文章の内容を正確に読み取る。
- ⑤古典常識の知識を深め、文章の構成を確かめたり、表現の特色をとらえる。
- ⑥文章に表れた人間、自然、社会などに対する思想や感情などの表現に即して読み味わう。
- ⑦自ら読み取った思想や感情などについて、感じ、考えたことを文章にまとめる。
- ⑧文章の背景に迫り、日本文化の特質や、日本文化と中国文化の関係について考える。

令和6年度（2024年度） シラバス

教科	地歴・公民	科目	公共			
科目の目標	人間と社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。					
教科書	詳述公共(実教出版)		副教材	テーマ別資料公共2024(とうほう)		
準備物	教科書、B5版ファイル、資料集					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	客観的な視点で物事を捉えることのできる力 自ら新たな価値を生み出そうとする力	論理的・多面的に物事を考えることのできる力	自ら問いを立て解決への道筋を探ろうとする力
割合	33%	33%	33%
A	社会的事象等を多角的・多面的に十分に捉えることができる。 意識的に新たな価値を生み出そうとする。	捉えた内容を多角的・多面的に十分に考えることができる。	自ら立てた問いに対し意識的に解決への道筋を探ろうとする。
評点	28～33	28～33	28～33
B	社会的事象等を客観的に捉えることができる。 現状を打破しようと試行錯誤しようとする。	捉えた内容を客観的に(他者視点で)考えることができる。	自ら問いを立てようとする。
評点	15～27	15～27	15～27
C	社会的事象等を主観で捉えるのが不十分である。 現状に甘んじてとどまっている。	捉えた内容を主観で考えるにとどまっている。	問いを与えられることにとどまっている。
評点	～14	～14	～14
評価方法	定期考査	定期考査	問い&解シート of 提出 研究発表

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4 5	公共の扉をひらこう	公共的な空間・自分らしさ・伝統と文化・先哲者 功利主義・正義論 現代の諸課題（環境・生命倫理） 思考実験・自由と権利・人間の尊厳と平等 公共の福祉 日本国憲法の基本原理
6 7 8	私たちの生活で法を活用しよう	法律と私法・情報社会と情報倫理 法の規範 多様な契約・消費者の権利と責任 司法の参加
9 10	民主政治の担い手として政治参加しよう	国会・内閣・地方自治 国際法と平和主義
11 12	経済社会で生きる私たちのあり方生き方を考えよう	現代の経済社会
1 2 3	私たちの働く未来を考えよう 持続可能な社会作りの主体となる私たち	日本経済の歩み 労働問題と雇用 研究発表会

3 学習方法（どうやって学ぶか）

基本的な授業スタイルは、
 問いの提示→資料読解・知識整理（一部講義型）→解の検討・共有（グループ・ペアワーク）→振り返りシート記入で行います。
 特にこの科目は高校の「学び方を学ぶ」科目でもなりますから、個人作業やペア学習、グループ学習もたくさん行います。受け身が一番定着はしないことをまずは理解した上で望んでください。
 単に「覚えて終わり！」では、なかなか知識も定着しませんし、学力もつきません。自ら考え、対話しながら深みのある学びをできるようにして下さい。Why、Howの疑問が浮かんだら、とことん調べて解決していきましょう。それが真の学力につながるはずです。

令和6年度（2024年度） シラバス 【書道Ⅰ】

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	1学年	必修	2単位
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書道の技能を高め、表現と鑑賞の基礎的な力を養う。					
教科書	光村図書 書道Ⅰ		副教材			
準備物	教科書・筆(幹旋あり。1回目の授業で説明後に準備すること。)					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	創造的な書表現の技能	書表現の構想と工夫	鑑賞の能力	書への関心・意欲・態度
旭東DP	【認知力】	【表現力】 【創造力】	【共感力】 【分析力】	【行動力】
割合	40%	30%	10%	20%
A	創造的な書表現をするために、基礎的な能力をいかし、効果的な表現の技能を身につけ、表すことが十分にできている。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫することが十分にできている。	日常生活の書の効能や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わうことが十分にできている。	書の造像的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことが十分にできている。
評点	33～40	25～30	8～10	17～20
B	創造的な書表現をするために、基礎的な能力をいかし、効果的な表現の技能を身につけ、表している。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	日常生活の書の効能や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。	書の造像的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
評点	17～32	13～24	4～7	9～16
C	創造的な書表現をするために、基礎的な能力をいかし、効果的な表現の技能を身につけ、表すことが不十分にである。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫することが不十分である。	日常生活の書の効能や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わうことが不十分である。	書の造像的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことが不十分にである。
評点	～16	～12	～3	～8
評価方法	作品（提出物） ワークシート	作品（提出物） ワークシート	自己評価プリント ワークシート	自己評価プリント ワークシート 授業態度

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	【オリエンテーション】書道とは？	・書写と書道の違いを学ぶ
	【篆刻】落款印を作ろう	・授業の進め方 ・篆刻の技法と手順を身につけ、自分の製作する印に工夫を加える。
5		
6	【臨書】臨書入門・漢字の書Ⅰ	・さまざまな楷書を鑑賞し、書表現の多様性を理解する。 ・九成宮醴泉銘・孔子廟堂碑により、楷書の基本点画の用筆と、臨書の学習法を学ぶ。
7	【臨書】漢字の書Ⅱ	・牛橛造像記を題材に、字形（方勢）や重厚な造像記の用筆法を学ぶ。
8		・顔氏家廟碑を題材に、字形（円勢）や顔真卿の用筆法を学ぶ。
9	【臨書】漢字の書のまとめ	・これまで学んだ漢字の書を半切1/2作品にまとめて復習し、作品のまとめ方を学ぶ。
10	【創作】創作入門・漢字仮名交じり書Ⅰ	・漢字仮名交じり書の作品を鑑賞し、書表現の多様性、広がりから書のよさを味わう。
11		・創作の筆遣いを学び、書写や臨書とは異なる創造的な表現に挑戦する。
12	【創作】漢字仮名交じり書Ⅱ	・詩文や構成、用具用材の使い方などの創作の基本を学び、自分の感性の表現を考える。
1	【創作】生活の書Ⅰ	・創作の学習をいかし、カレンダーを書く。
	【臨書】仮名の書入門	・仮名の成立と字源、筆遣いを学ぶ。
2	【臨書】仮名の書（いろは・俳句を書く）	・仮名の筆遣いに慣れ、仮名の線の特質と運筆のリズムをいかした作品作りを行う。
3	【まとめ】日常の書・一年間の学習のまとめ	・はがきや封筒などの日常の書について学ぶ ・一年間の振り返りを行う。

3 学習方法（どうやって学ぶか）

(1) 中国や日本の古典の中から、楷書や行書を中心として、臨書を行います。臨書とは、優れた古典をよく見て特徴を捉え、手本として表現することです。臨書を通して、筆遣いや字形の整え方、作品としてのまとめかたを学びます。

(2) 漢字仮名まじりの書や一字書などの創作に取り組みます。書写とは異なる見方・書き方を学び、挑戦しましょう。自分の好きな言葉を選んで、カレンダーなどを作る生活の中の書にも取り組みます。

(3) その他、篆刻として落款印を制作します。（時間がある場合に、硬筆の学習を取り入れることもあります。）

(4) よりよい作品作りのためには、知識技能と、創造的な表現や工夫が必要です。毎時間の指示やねらいにあった作品作りを心掛けましょう。どんなによいものでも、そのときの目標とずれがあれば評価に値しません。また、食欲に書いて、ベストの作品となるように書き込みましょう。

(5) 作品作りのために、仲間と鑑賞し合う「相互評価」と、毎時間行う「自己評価」を行います。アドバイスや自己の気づきを大切にしましょう。

(6) 評価は、提出した作品、ワークシート・自己評価プリント、授業中の態度を、評価の観点に基づいて評価します。考查は実施しません。予習や復習は必要ありませんが、日頃から書かれた文字や言葉に関心を持つように心掛けましょう。

令和 6 年度（2024年度） シラバス【数学ⅠAⅡ】

教科	数学科	科目	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ	1 学年	必修	3・2・1 単位
科目の目標	(1) 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、それぞれの問題に相応しい解法を選択することができる。 (2) 事象を論理的に考察する力、他の事象との関係を認識し、多面的・発展的に考察する力を養う。 (3) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。					
教科書	数学Ⅰ・A・Ⅱ（数研出版）		副教材	4 STEP（数研出版）・(青)基礎からのチャート式（数研出版）		
準備物	教科書 ・ 4 STEP ・ ノート ※自主学習用のノートも準備することが望ましい					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	認知力	分析力・思考力・表現力	探究力・共感力
割合	40%	40%	20%
A	・数学における基本的な概念や原理・法則などを体系的に十分に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能を十分に身に付けている。	・事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力を十分に身に付けている。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分に身に付けている。	・自己の課題を適切に認識し、その課題に対して主体的にかつ十分にに取り組むことができる。 ・数学的活動を通じて、数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的根拠に基づき、判断しようとする。
評点	21~40	21~40	6~20
B	・数学における基本的な概念や原理・法則などを体系的にやや理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能をやや身に付けている。	・事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力をやや身に付けている。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力をやや身に付けている。	・自己の課題を認識し、その課題に対して取り組むことがややできる。 ・数学的活動を通じて、数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的根拠に基づき、判断しようとする。
評点	11~20	5~20	1~5
C	・数学における基本的な概念や原理・法則などの理解が不十分である。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能が不十分である。	・事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力が不十分である。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が不十分である。	・自己の課題を適切に認識することができず、自己の課題に取り組めていない。 ・数学的活動に主体的に取り組もうとしていない。 ・数学的根拠に基づき、判断しようとしていない。
評点	0~10	0~5	0
評価方法	・定期考査 ・単元テスト	・定期考査 ・単元テスト	・課題の取組み状況 ・数学的活動への取組み状況 ・その他

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名		具体的な学習内容
4	数学 I 第 1 章数と式	第 1 節 式の計算	1. 多項式 2. 多項式の加法と減法及び乗法 3. 因数分解
		第 2 節 実数	4. 実数 5. 根号を含む式の計算
5	数学 I 第 3 章 2 次関数	第 3 節 1 次不等式	6. 1 次不等式 7. 1 次不等式の利用 ☆単元テスト
		第 1 節 2 次関数とグラフ	1. 関数とグラフ 2. 2 次関数のグラフ 3. 2 次関数の最大と最小 4. 2 次関数の決定
6		第 2 節 2 次方程式と 2 次不等式	5. 2 次方程式 6. グラフと 2 次方程式 7. グラフと 2 次不等式 ◎前期中間考査
		数学 I 第 2 章集合と命題	1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題と証明
7	数学 A 第 1 章 場合の数と確率	第 1 節 場合の数	1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 円順列・重複順列 5. 組合せ
		第 2 節 確率	6. 事象と確率 7. 確率の基本性質 8. 独立な試行の確率 9. 反復試行の確率 10. 条件付き確率 11. 期待値 ◎前期期末考査
8		第 1 節 三角比	1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用 ☆単元テスト
		第 2 節 三角形への応用	
9	数学 I 第 4 章図形と計量	第 1 節 三角比	
		第 2 節 三角形への応用	
10	数学 A 第 2 章図形の性質	第 1 節 平面図形	1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心、内心、重心 3. チェバ・メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 方べきの定理 7. 2 つの円の位置関係 8. 作図 9. 直線と平面 10. 多面体 ☆単元テスト
		第 2 節 空間図形	
11	数学 A 第 3 章数学と人間の活動		1. 約数と倍数 2. 素数と素因数分解 3. 最大公約数・最小公倍数 4. 整数の割り算 5. ユークリッドの互除法 6. 1 次不定方程式 7. 記数法 ◎後期中間考査
		数学 I 第 5 章 データの分析	1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位範囲

12			4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間関係 6. 仮説検定の考え方 ☆単元テスト
1	数学Ⅱ 第1章式と証明	第1節 式と計算	1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 整式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式 6. 等式の証明 7. 不等式の証明 ◎後期期末考査
2		第2節 等式と不等式の証明	
3	第2章 複素数と方程式		1. 複素数 2. 2次方程式の解と判別式 3. 解と係数の関係 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式 ☆単元テスト

3 学習方法(どうやって学ぶか)

(1) 学習した内容を理解し、新たな問題に対して、学習した内容をどのように活用していくと解決できるのかを考えることが大事です。解けなくとも、思考している時間を大切にしましょう。 (2) 数学がわからない時こそチャンスです。調べたり、人に聞いたり、時間をかけて考えたりするなど 自 主的に行動を起こし、「わからないことをどのように解決するのか」自分なりの方法を見出そう。 (3) 数学は「問題が解けること」と「数学がわかること」は別です。数学をわかるためには基礎・基本 や 定義に立ち返って考えていくことが大切です。独りよがりの記述になっていないか、常に確認してい か なければ、数学の本当の力は身につけません。 (4) なぜそうなるのかを確認するために、証明などもしっかりと理解をしていきましょう。 (5) 数学は積み重ねが大切な教科です。日々の学習への姿勢が最も大切です。 (6) 数学は論理的に考える力を育てます。これは文理問わず、教科を横断する大切な力ですので、必要 が あるかないか、自分には向いているか向いていないかなどの視点から数学をみることは避けるべきで す。

令和6年度（2024年度） シラバス

教科	保健体育	科目	体育	1学年	必修	3単位
科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。					
教科書	なし		副教材	なし		
準備物	本校指定ジャージ(ハーフパンツ含む)とTシャツ・外運動靴・水泳用具・スキー用具・柔道着(男子のみ)					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【表現力】	【分析力】 【表現力】	【行動力】 【共感力】
割合	40%	30%	30%
A	運動の多様性や体力の必要性について知識・理論と技能が十分に身についている。	運動課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて分析することが十分にできている。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることが十分にできている。	公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にする、安全を確保して行動する態度が十分に身についている。
評点	31～40	24～30	24～30
B	運動の多様性や体力の必要性について知識・理論と技能が身についている。	運動課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて分析することができている。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができている。	公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にする、安全を確保して行動する態度が身についている。
評点	11～30	13～23	13～23
C	運動の多様性や体力の必要性について、身につけるべき知識・理論と技能が不十分である。	運動課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けての分析が不十分である。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることが不十分である。	公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にする、安全を確保して行動するなど身につけるべき態度が不十分である。
評点	5～10	5～12	5～12
評価方法	授業時の行動観察 技能テスト	授業時の行動観察 提出・記録物の記述内容	授業時の行動観察 提出・記録物の記述内容

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	男女：体づくり運動	新体力テストを実施する。
	男女：体育理論	運動の取り組み方を学ぶ。
5	男子：器械運動（マット運動）	回転系や技巧系の技を構成して演技する。
	女子：球技（バドミントン）	状況に応じたシャトル・ラケット操作と身体動作の連携によって空間を作り出すなどの攻防をする。
6	男女：球技（バレーボール）	状況に応じたボール操作と他者との連携によって空間を作り出すなどの攻防をする。
7		
8	男女：水泳（平泳ぎ）	手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり、速く泳いだりする。
9	男女：陸上競技（長距離走）	自分の体力に応じて、ペースの変化に対応しながら走る。
10	男子：武道（柔道）	相手の動きに応じた基本動作から相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防をする。
	女子：球技（バスケットボール）	状況に応じたボール操作と空間を埋める等の動きによって、空間への侵入などから攻防をする。
11	男子：球技（バスケットボール）	状況に応じたボール操作と空間を埋める等の動きによって、空間への侵入などから攻防をする。
12	女子：器械運動（マット運動）／ダンス	回転系や技巧系の技を構成して演技する。 ダンス特有の表現や踊りを身につけて交流する。
1	男女：スキー	状況に応じたスキー操作と身体動作の連携によってターンをコントロールして滑る。
2		
3	男女：体づくり運動（種目選択）	体力の向上を図るための計画的な運動計画を立てて取り組む。

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- (1)「礼に始まり、礼に終わる」。円滑に人と関わり合うために、必要不可欠な行動様式である。毎回の授業で始まりと終わりの礼についても真剣な態度で臨もう。
- (2)ともに活動する仲間を大切にすること。そのためには、一人一人の違いを認めて、前向きで思いやりのある発言や行動を意識しよう。
- (3)各単元での到達状況を測るために技能テストを行うが、技能向上ためには基本的知識の習得と正しい思考と判断に基づく反復練習が欠かせない。ゆえに自己の能力に応じて、積極的に知識量と運動量を増やすよう心掛けよう。
- (4)持続的な体力の維持・向上のために毎時実施している、体操と補強運動（プッシュアップとシットアップ）に必ず取り組もう。
- (5)主体的に運動することを強く勧める。体育の授業以外で運動に取り組む時間を確保するように努めること。継続的な運動習慣を身につけることが、心身の調和がとれた健康的な生活を送るための第一歩です。
- (6)体育の授業を通して身に付けることは運動に関する知識や技能、それを活用して思考したり表現したりする力であるため、他の教科・科目に応用できる。それを意識して高校の授業に臨もう。

令和6年度（2024年度） シラバス

教科	保健体育	科目	保健	1学年	必修	1単位
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習を通して、心と体を一体として捉え、生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目指す。					
教科書	現代高等保健体育	副教材	図説 現代高等保健			
準備物	教科書・副教材・必要に応じてノート（指示あり）					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】	【思考力】 【表現力】	【行動力】 【共感力】
割合	40%	30%	30%
A	個人および社会生活における健康・安全についての知識・理論と技能が十分に身についている。	健康について自分や他者、社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することが十分にできている。 目的や状況に応じて、自分の意見を他者に伝えることが十分にできている。	生涯を通じて自分や他者の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営もうとする態度が十分に身についている。
評点	32～40	24～30	24～30
B	個人および社会生活における健康・安全についての知識・理論と技能が身についている。	健康について自分や他者、社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することができている。 目的や状況に応じて、自分の意見を他者に伝えることができている。	生涯を通じて自分や他者の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営もうとする態度が身についている。
評点	16～31	13～23	13～23
C	個人および社会生活における健康・安全について、身につけるべき知識・理論と技能が不十分である	健康について自分や他者、社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することが不十分である。 目的や状況に応じて、自分の意見を他者に伝えることが不十分である。	生涯を通じて自分や他者の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むために身につけるべき態度が不十分である。
評点	8～15	6～12	6～12
評価方法	定期考査 授業時の確認テスト 提出・記録物の記述内容	定期考査 提出・記録物の記述内容	授業時の行動観察 提出・記録物の記述内容

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	大単元 現代社会と健康	
	小単元 1 健康の考え方	
	1 健康の考え方と成り立ち	健康の成り立ちと考え方について学ぶ
	2 私たちの健康のすがた	健康を保持増進するための考え方と行動を学ぶ
5	小単元 2 疾病の予防	
	1 生活習慣病の予防と回復	生活習慣病と日常の生活行動の関係を学ぶ
	2 がんの原因と予防	がんの種類と予防の方法を学ぶ
	3 がんの治療と回復	がんの治療と社会的支援について学ぶ
6	小単元 3 健康の保持増進	
	1 運動と健康	健康的な生活を送るための考え方を運動面から学ぶ
	2 食事と健康	健康的な生活を送るための考え方を食事面から学ぶ
	3 休養・睡眠と健康	健康的な生活を送るための考え方を休養面から学ぶ
7	小単元 4 依存性物質と健康	
	1 喫煙と健康	喫煙に関する望ましい考え方と適切な行動を学ぶ
	前期期末考查	
	9	2 飲酒と健康
3 薬物乱用と健康		薬物乱用は「絶対にダメ」であることを学ぶ
小単元 5 精神の健康		
10		1 精神疾患の特徴
	2 精神疾患の予防	精神疾患の予防と対策について学ぶ
	3 精神疾患からの回復	精神疾患の治療と社会的支援について学ぶ
	小単元 6 感染症と健康	
11	1 現代の感染症	感染症の発生や流行について様々な視点から学ぶ
	2 感染症の予防	感染症予防の適切な対処のしかたを学ぶ
	3 性感染症・エイズとその予防	性行為にともなう感染症について学ぶ
	小単元 7 健康への考え方	
12	1 健康に関する意志決定・行動選択	意志決定・行動選択に影響を与える要因について学ぶ
	2 健康に関する環境づくり	社会環境の健康への影響について学ぶ
	大単元 安全な社会生活	
	小単元 8 安全な社会づくり	
12	1 事故の現状と発生要因	事故の実態と被害の実態について学ぶ
	2 安全な社会の形成	安全のために必要な個人の行動について学ぶ
	3 安全な交通社会づくり	事故のない安全な社会づくりに必要なことを学ぶ
	小単元 5 応急手当	
2	1 応急手当の意義とその基本	応急手当の必要性を学ぶ
	2 心肺蘇生法	胸骨圧迫のやり方とAEDの使い方を学ぶ
	3 日常的な応急手当	応急手当の手順・方法を学ぶ
	後期期末考查	

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- (1)「礼に始まり、礼に終わる」。円滑に人と関わり合うために、必要不可欠な行動様式である。毎回の授業で始まりと終わりの礼についても真剣な態度で臨もう。
- (2)ともに活動する仲間を大切にすること。そのためには、一人一人の違いを認めて、前向きで思いやりのある発言や行動を意識しよう。
- (3)各小単元での到達状況を測るために授業内テストをおこなう場合があります。授業で取り扱った内容を必要に応じて定期的に復習するように心掛けよう。
- (4)定期考查は2回実施します。出題範囲が広範囲に及ぶので長期的で計画的な対策を講じよう。
- (5)保健で学ぶことは自分の生活行動に直接繋がっています。語句の暗記にとどまる学習はやめよう。
- (6)保健の授業を通して身に付けることは健康に関する知識や技能、それを活用して思考したり表現したりする力であるため、他の教科・科目に応用できます。それを意識して高校の授業に臨もう。

地歴公民科

教科名	地歴科	科目名	歴史総合
科目の目標	(1) 歴史についての興味関心を深め、基本的な歴史用語を理解する。 (2) 歴史の学習を通して現代社会についての理解を深め、歴史の方法論を学ぶ。		
履修学年	1年	類型	1学年共通
単位数	2単位	履修形態	必修
教科書	詳細歴史総合(東京書籍)	副教材等	歴史総合図説シンフォニア (帝国書院)

1 学習の到達目標

- ①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ②近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ③近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 評価の方法

(1) 評価の観点

知識・技能	○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 ○諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	○近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○近現代の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ○よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

	(○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。)
--	---

(2) 評価の時期と方法

- ア 前期、後期の定期考査では、知識偏重にならないように考慮したい。配分は1年生の実状に合わせて設定し、各観点に基づいた評価ができるようにする。
- イ 評価は定期考査だけで判断しない。教科書の各項目の冒頭にある「問い」に対する答えや、各項目の最後にある「TRY」の答え、また、各章4節の「現代的な諸課題」の「考えてみよう・調べてみよう」の答えなどを、ノートやワークシート等に記述させ、評価の対象とする。教科書を利用した記述だけでなく、授業中の他の活動におけるプレゼンテーションやグループワークの結果、ノートやワークシートの記述等、複数の観点から評価をする。
- ウ それぞれの評価は、生徒が「おおむね満足できる」状況に到達できるよう設定する。評定にいたるまでの段階で「努力を要する」状況と判断される場合には、さまざまなアドバイス等によって学習改善を図る。

(4) 評定について

評定については、地歴・公民科の実状に合わせて設定された目標のもとに、評価規準に照らし合わせて、生徒が「おおむね満足できる」状況に到達できているかを軸として、総合的に判断する。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
4月	序章 歴史の扉 1 節 歴史と私たち 世界とつながる旅行の歴史 ～身近なものから歴史を考えてみよう～		○諸資料を活用し、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。	
	2 節 歴史の特質と資料		○日本や世界のさまざまな地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、図像などの資料を活用し、資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。	
		◆前近代の日本と世界のつながり	○中学校の歴史的分野で学習した内容を基に、前近代の日本と世界のつながりについて振り返る。	
		◆前近代の世界 1 日本の幕藩制社会と身分制 2 東アジアの伝統的な華夷秩序 3 イスラーム世界におけるカリフと秩序 4 ヨーロッパにおける主権国家体制の形成 5 世界をめぐる銀の流れ	○日本の江戸時代の支配体制について理解する。 ○東アジアの華夷秩序について理解する。 ○イスラーム世界のカリフと秩序について理解する。 ○ヨーロッパの主権国家体制について理解する。 ○前近代における銀の役	

月	单元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
5月			割について理解する。	
		◆歴史と深くかかわる植物	○歴史と関係のある植物について理解する。	
	第1章 近代化と私たち 1節 近代化への問い		○交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から、情報を読み取ったりまとめたりし、近代化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現する。	
	2節 結びつく世界と日本の開国		①18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ②産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、工業化と世界市場の形成を理解する。	

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		1 18 世紀の東アジア	○18 世紀の東アジア諸国がどのような関係を築き、どのような経済発展をしていったのかについて理解する。	○18 世紀のアジアの経済と社会についての問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ○18 世紀の東アジア諸国が、それぞれどのように発展していったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		●歴史のまなざし アイヌと琉球・沖縄	○アイヌと琉球の歴史について学び、18 世紀の東アジアの理解を深める。	
		2 結びつくアジア諸地域	○18 世紀のアジア諸地域は、どのような経済関係を形成していたのかについて理解する。	○18 世紀のアジア諸地域にどのような文明があり、それぞれがどのような経済関係を形成していたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 18 世紀のヨーロッパとアジア	○18 世紀のヨーロッパとアジアが、どのような経済関係を形成したのかについて理解する。	○18 世紀のヨーロッパとアジアとの間の交易がどのようなものであったのかを諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○18 世紀のアジアの経済と社会についての問いを踏まえて、小単元の学習を振り返る。
		●歴史のまなざし 豊かなアジア、模倣するヨーロッパ	○アジアの文化がヨーロッパに与えた影響を学び、ヨーロッパとアジアの関係についての理解を深める。	
		4 産業革命のはじまり	○イギリスで起こった産業革命の内容と、その後の変化について理解	○工業化と世界市場の形成についての問いを表現し、小単元の学習の

月	单元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
			する。	見通しを立てる。 ○世界で初めてイギリスで産業革命が起こった背景や、産業革命がもたらしたその後の変化について、諸資料から読み取り、その因果関係について多面的・多角的に考察し、表現する。
		5 世界市場の形成	○イギリスを中心とする世界市場が形成された過程と、世界の諸地域の変容について理解する。	○産業革命を経て圧倒的な工業力を持ったイギリスが、「世界の工場」・「世界の銀行」と呼ばれるようになる過程や、その影響を受けた諸地域がどのように変容していったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		6 東アジアの国際秩序の変化と日本の開国	○19世紀の東アジアが、どのような変化をとげたのかについて理解する。	○19世紀の東アジアが、この地域に進出してきた西洋諸国とどのように変化していったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		●歴史のまなざし 毛皮交易と捕鯨がかえた太平洋世界	○毛皮交易と捕鯨の歴史について学び、東アジアと太平洋世界との関わりについて理解を深める。	
		7 世界経済の変化と日本の産業革命	○産業革命の拡大が、世界や日本にどのような変化をもたらしたのかについて理解する。	○産業革命の拡大が、日本をはじめとした国々にどのような変化をもたらしたのかについて、諸

月	单元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
				資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○工業化と世界市場の形成に対する問いを踏まえて、小単元の学習を振り返る。
		●歴史のまなざし 綿紡績と製糸	○紡績業と製糸業について学び、産業革命の理解を深める。	
6月	3節 国民国家と明治維新		①国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、立憲制と国民国家の形成を理解する。 ②帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。	
		1 市民革命と近代社会	○市民革命はどのような社会の仕組みを生み出したのかについて理解する。	○立憲体制と国民国家の形成についての問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ○アメリカ独立革命やフランス革命が生み出した社会の仕組みについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	单元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		●歴史のまなざし 19世紀が生んだ夢	○19世紀のさまざまな思想家について学び、社会変革思想の理解を深める。	
		2 自由主義とナショナリズム	○19世紀の欧米諸国では、どのような国家形態が模索されたのかについて理解する。	○19世紀の欧米で広まった、自由主義とナショナリズムの運動が生み出した国家形態について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		●地域の歴史 中南米の多様性	○中南米の歴史について学び、地理的な理解を深める。	
		3 アジアの諸国家とその変容	○19世紀のアジア諸地域では、どのような背景のもとにどのような政治的变化が生じたのかについて理解する。	○19世紀に起きたアジア諸地域の政治的变化について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		4 明治維新と東アジアの国際関係	○明治維新は、どのような国際環境の中で起き、日本社会をどのように変えたのかについて理解する。	○日本で明治政府が行ったさまざまな改革や、その当時の東アジアの国際関係について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		●歴史のまなざし 万国博覧会	○万国博覧会について学び、産業革命と植民地支配の理解を深める。	
		5 立憲制の広まり	○19世紀後半の立憲制国家は、それぞれどのような特徴を持っていたのかについて理解する。	○19世紀後半のさまざまな国の立憲制について、それぞれの特徴を諸資料から読み取り、その類似点や相違点を多面的・多角的に考察し、表現する。 ○立憲体制と国民国家の形成についての問いを踏まえて、小単元の学習を振り返る。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
7月		6 帝国主義と植民地	○帝国主義とは何かを理解する。また、帝国主義国の植民地獲得競争がどのように繰り広げられたのかについて理解する。	○列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容についての問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ○帝国主義が起こった背景や、帝国主義国による世界分割の進行と世界秩序の変容について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		●地域の歴史 アフリカの分割と自立	○アフリカの歴史について学び、地理的な理解を深める。	
		7 日清戦争と華夷秩序の解体	○日清戦争が東アジアの国際秩序にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○日清戦争が起こった背景や、戦後の東アジアのナショナリズムの高まりについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		8 帝国主義諸国の競合と国際関係	○帝国主義国家どうしがどのような関係を築いたのかについて理解する。	○帝国主義諸国間の対立や協力、日本とロシアの対立などの国際関係について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		9 植民地支配と植民地の近代	○植民地の人々がどのような支配を受けていたのかについて理解する。	○帝国主義国による植民地支配とそこで暮らす人々の生活などについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	单元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		10 20 世紀はじめの世界	○20 世紀初期、帝国主義に対して人々はどのような態度を示し、アジア諸国はどのような動きを見せたのかについて理解する。	○20 世紀初めの帝国主義国内の人々の動きや、その当時の国際関係の再編について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容についての問いを踏まえて、小単元の学習を振り返る。
		●歴史のまなざし 写真技術の発展	○写真技術の歴史について学び、歴史資料の拡大について理解を深める。	
	4 節 近代化と現代的な諸課題		○自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。	
		◆この時代の生活・文化 「近代」との出会い、「異文化」へのあこがれ	○生活と文化に関する写真等から、近代化の歴史を振り返り、理解を深める。	

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
9月	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1節 国際秩序の変化や大衆化への問い		○国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソビエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料を活用し、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現する。	
	2節 第一次世界大戦と大衆社会		①第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジアおよび太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ②第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。	

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		1 大衆社会の時代	○大衆化とは何か、また、大衆化によって人々の生活がどのように変化したのかを理解する。	○総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制についての問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ○大衆化によって、人々の生活がどのように変化したのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 第一次世界大戦の展開	○第一次世界大戦はどのように展開したのかについて理解する。	○第一次世界大戦において出現した総力戦体制とはどのようなものだったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		●地域の歴史 バルカン問題と第一次世界大戦	○バルカン半島の歴史について学び、地理的な理解を深める。	
		3 国際協調体制の形成	○第一次世界大戦後の国際協調体制について理解する。	○第一次世界大戦後、戦争の再発を防ぐためにどのような仕組みがつけられたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		4 ソヴィエト連邦の成立と社会主義	○ソヴィエト連邦の成立と、社会主義運動の拡大過程について理解する。	○ソヴィエト連邦がどのような経緯のもとに成立し、社会主義国家の成立が世界にどのような影響を与えたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	单元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
10 月		5 アメリカ合衆国の台頭と大量消費社会	○アメリカ合衆国の台頭と大衆文化の広がりについて理解する。	○アメリカ合衆国の台頭と大量生産・大量消費社会の到来が、世界の人々にどのような影響を与えたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		6 アジアの経済成長と移動する人々	○アジアの経済成長とそれぞれの地域の結び付きについて理解する。	○第一次世界大戦後のアジアの経済がどのように発展し、どのような人の移動があったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制についての問いを踏まえて、小単元の学習を振り返る。
		●歴史のまなざし 近代における日中間の漢字循環	○漢字の循環について学び、東アジアの歴史について理解を深める。	
		●地域の歴史 太平洋・オセアニアの歴史	○太平洋・オセアニアの歴史について学び、地理的な理解を深める。	
		7 反植民地主義の高揚と国際秩序の変容	○反植民地主義の高揚と国際秩序の変容について理解する。	○大衆社会の形成と社会運動の広がりについての問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ○国際協調の時代に、アジアではどのような民族運動が起こり、日中関係がどのように展開していったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考

月	单元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
				察し、表現する。
		8 民主主義の拡大と社会変革の動き	○世界における民主主義の進展と、日本での展開について理解する。	○民主主義がどのように世界に広がり、日本で大正デモクラシーと呼ばれる風潮を引き起こすことになったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		9 マスメディアの発達と日常生活	○マスメディアの発達と人々の日常生活の変化について理解する。	○マスメディアの発達と、それに対する人々の日常生活の変化、大衆社会の成立について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○大衆社会の形成と社会運動の広がりについての問いを踏まえて、小単元の学習を振り返る。
	3 節 経済危機と第二次世界大戦		①経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に	

月	单元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
			考察し、表現することを通して、国際協調体制の動揺を理解する。 ②第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	
		1 世界恐慌	○世界恐慌が発生した原因とそれに対する各国の対応について理解する。	○国際協調体制の動揺についての問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ○世界恐慌が発生した過程と、それに対して各国がどのように対応したのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		●歴史のまなざし 通貨制度の歴史	○通貨制度について学び、世界の経済についての理解を深める。	
		2 アジア・アフリカと大衆社会	○動揺しつつある国際協調体制下での、アジア・アフリカ諸国の人々の対応について理解する。	○国際協調体制の動揺の中で、アジア・アフリカ諸国の人々がどのように自立化を模索し、大衆運動を活発化させて

月	单元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		3 国際協調体制の崩壊	○第一次世界大戦後の国際協調体制の崩壊について理解する。	いったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○ヨーロッパにおけるファシズムの伸長とそれへの他国の対応、アジアにおける日本の軍部の台頭について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		4 日中戦争と深刻化する世界の危機	○日中戦争やファシズムの膨張による世界の危機について理解する。	○日本がどのような経緯で日中戦争を始め、また、それがヨーロッパの動きとどのように関わっていたかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○国際協調体制の動揺についての問いを踏まえて、小単元の学習を振り返る。
		5 第二次世界大戦の勃発	○第二次世界大戦の勃発とその拡大、および日中戦争との結び付きについて理解する。	○第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰についての問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ○第二次世界大戦がどのように始まり、どのように拡大したか、また、日中戦争やアジア太平洋戦争とどのように結び付いたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	单元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
11 月		6 第二次世界大戦における連合国と戦後構想	○第二次世界大戦の終結と戦後の国際秩序の形成について理解する。	○イタリアとドイツがどのように無条件降伏をしたか、また、戦後にどのような国際秩序が目指されたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		7 アジア太平洋戦争と日本の敗戦	○アジア太平洋戦争の展開と、日本の敗戦について理解する。	○アジア太平洋戦争下の人々の生活はどのようなものだったのか、また、戦争がどのように展開していく中で日本が降伏したのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		●歴史のまなざし 大日本帝国内の人の移動	○人の移動の歴史について学び、植民地等についての理解を深める。	
		8 連合国の占領政策と日本の戦後改革	○連合国による枢軸国の占領政策と日本の戦後改革について理解する。	○戦後の国際秩序のもとで、連合国による枢軸国の占領政策がどのように行われたのか、また、日本のさまざまな改革がどのように行われたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		●歴史のまなざし ホロコーストと戦後ドイツ社会における「記憶」	○ホロコーストについて学び、ドイツ史についての理解を深める。	
		●歴史のまなざし 日本とドイツの戦後	○日本とドイツの比較から、第二次世界大戦後の歴史についての理解を深める。	

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		9 冷戦のはじまりと東アジアにおける展開	○冷戦の展開と日本の主権回復について理解する。	○冷戦がどのように始まり、冷戦下の東アジアがどのような動きを見せたのか、また、日本がどのようにして主権を回復したのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		10 再編されるアジア	○冷戦下に再編されたアジア諸地域の動きについて理解する	○冷戦下にアジアの諸地域で起こったナショナリズムや民族独立の動きが、世界にどのような影響を与えたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰についての問いを踏まえて、小単元の学習を振り返る。
		●地域の歴史 東南アジアの独立運動	○東南アジアの歴史について学び、地理的な理解を深める。	
	4 節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題		○自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる国際	

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
			秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。	
		◆この時代の生活・文化 花ひらく大衆文化	○生活と文化に関する写真等から、国際秩序の変化や大衆化の歴史を振り返り、理解を深める。	
12月	第3章 グローバル化と私たち 1節 グローバル化への問い		○冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用し、グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。	
	2節 冷戦と世界経済		①地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換などを多面的・多角的に考察し、表現することを通	

月	单元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
			して、国際政治の変容を理解する。 ②冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。	
		1 冷戦の拡大と第三勢力	○冷戦の拡大と第三勢力の台頭について理解する。	○国際政治の変容についての問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ○冷戦が拡大しながらも共存していく過程や、その中でアジア・アフリカ諸国に独自の動きが現れたことについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 キューバ危機と核兵器の管理	○冷戦下の核開発競争と宇宙開発競争、および核兵器管理への方針転換について理解する。	○米ソ両国の核開発競争と宇宙開発競争の展開と、キューバ危機をきっかけとした核兵器管理体制への転換について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		●歴史のまなざし イギリス型の帝国とアメリカ型の帝国	○英米の対外政策の比較から、帝国主義についての理解を深める。	

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
1月		●歴史のまなざし グローバルな反核運動	○反核運動について学び、グローバル化の歴史についての理解を深める。	
		3 脱植民地化の進展と地域紛争	○アジア・アフリカにおける脱植民地化の動きと、それらの地域で起こった地域紛争について理解する。	○アジア・アフリカで植民地が次々に独立したが、さまざまな要因により地域紛争が頻発したことについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○国際秩序の変容についての問いを踏まえて、小単元の学習を振り返る。
		●地域の歴史 パレスティナ問題	○パレスティナの歴史について学び、地理的な理解を深める。	
		4 計画経済と開発	○自由主義国と社会主義国がとった経済政策と、新興国の経済政策と先進国の援助について理解する。	○世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会についての問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ○社会主義国の計画経済と西側先進国の福祉国家化、および開発途上国の経済政策と先進国の開発援助について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		5 冷戦下の日本とアジア	○冷戦下の日本の国内政治とアジア外交について理解する。	○冷戦下の日本の国内政治や安全保障、およびアジア外交について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		6 日本と欧米先進国の経済成長	○欧米先進国と日本の経済成長とそれに伴う社会の変容について理解する。	○欧米先進国や日本の経済成長の特徴と、経済成長がもたらした社会の変容や環境問題について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		7 地域連携の拡大	○ヨーロッパやアジアにおける地域連携の動きについて理解する。	○ヨーロッパで進んだ地域連携の動きやアジアにおける地域連携の動きにはどのような特徴があるのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。
		8 ベトナム戦争と冷戦構造の変容	○ベトナム戦争と冷戦構造の変容について理解する。	○ベトナム戦争や中ソの対立が世界に与えた影響について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会についての問いを踏まえて、小単元の学習を振り返る。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
2月	3 節 世界秩序の変容と日本		①アジア諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、市場経済の変容と課題を理解する。 ②冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。	
		1 問い直される近代	○先進諸国において、近代的な価値観を問い直す動きが現れ、価値観の変容が生じたことについて理解する。	○市場経済の変容と課題についての問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。 ○経済的な発展をとげた先進諸国において、物質的な豊かさをはじめとした近代的な価値観が見直されるようになり、新たな価値観に基づいたさまざまな運動が起こったことについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。

月	单元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		●歴史のまなざし 女性と近現代	○女性史について学び、 近代以降の歴史について の理解を深める。	
		●歴史のまなざし 歴史としてのビートルズ	○ビートルズについて学び、 グローバル化の時代の文化について の理解を深める。	
		2 石油危機と経済の自由化	○ブレトン・ウッズ体制の崩壊や石油危機後の、 日本や諸外国の経済の変容について 理解する。	○ブレトン・ウッズ体制の崩壊や石油危機に対する 先進国の対応、その後の日本の 経済大国化について、諸資料から 読み取り、多面的・多角的に 考察し、表現する。
		3 アジアの経済発展と日本	○東アジア・東南アジア諸国・ 地域の経済発展について理解 する。	○アジア NIES や ASEAN 諸国の 経済発展と日本の関係、中国の 改革開放政策と経済発展などについて、 諸資料から読み取り、多面的・ 多角的に考察し、表現する。 ○市場経済の変容と課題について の問いを踏まえて、小単元の学 習を振り返る。
		4 冷戦の終結と世界	○冷戦の終結と東アジアの分断 状況について理解する。	○冷戦終結後の国際政治の変容と 課題についての問いを表現し、 小単元の学習の見通しを立てる。 ○冷戦の終結に向かったアメリカと ソ連、およびヨーロッパ諸国の 動きと、東アジアにおける分断 状況の継続について、諸資料から 読み取り、多面的・多角的に 考察し、表現する。

月	单元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		●歴史のまなざし 台湾・香港・韓国の 経済発展と政治・社 会変容	○台湾・香港・韓国の経済 発展と民主化について 学び、20 世紀後半以降 の東アジア史について の理解を深める。	
		5 拡散する地域 紛争	○冷戦終結後、世界各地 で起きた地域紛争や、 平和を維持するために 行われたさまざまな活 動について理解する。	○冷戦終結後、旧東側陣 営や中東を中心に起き た地域紛争や、各地の 紛争解決に向けての国 際連合やアメリカ合衆 国、日本などの動きに ついて、諸資料から読 み取り、多面的・多角 的に考察し、表現する。
		6 民主化の進展	○世界各国で進んだ民主 化の動きと、日本の政 権交代について理解す る。	○世界各国で進んだ民主 化の動きと冷戦の終結 の関係や、日本で起こ った政権交代につい て、諸資料から読み取 り、多面的・多角的に考 察し、表現する。
		7 グローバル化 と地域統合	○冷戦終結後に進んだグ ローバル化と地域統合 について理解する。	○冷戦終結後に人・モノ・ カネ・情報などが国境 を越えて移動するよう になり、グローバル化 が進んだだけでなく、 地域統合が進展したこ とについて、諸資料か ら読み取り、多面的・多 角的に考察し、表現す る。
		●歴史のまなざし 宇宙開発の歴史	○宇宙開発の歴史を学 び、科学技術の発展に ついての理解を深め る。	
		8 岐路に立つ世 界と日本	○グローバル化や地域統 合、民主主義が抱えた 問題点について理解す る。	○グローバル化の進展に よって世界が抱えた問 題点や、その解決に向 けての取り組みについ て、諸資料から読み取

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
				り、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○冷戦終結後の国際政治の変容と課題についての問いを踏まえて、小単元の学習を振り返る。
3月	4 節 現代的な諸課題の形成と展望		○持続可能な社会に向けて、現代的な諸課題の展望を探究する。	
		◆この時代の生活・文化 世界各地の文化が身近に ー情報化とグローバル化ー	○生活と文化に関する写真等から、グローバル化の歴史を振り返り、理解を深める。	
		探究の方法	○歴史探究の方法について学び、実際に自分が探究学習をする際に必要なことを理解する。	